



家庭数

九条弘道

—学校だより—

Tel:671-6981 Fax:691-3458 http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/kujokodo-s/

京都市立九条弘道小学校
校長 木村 和美
令和2年10月14日
前半学校評価号

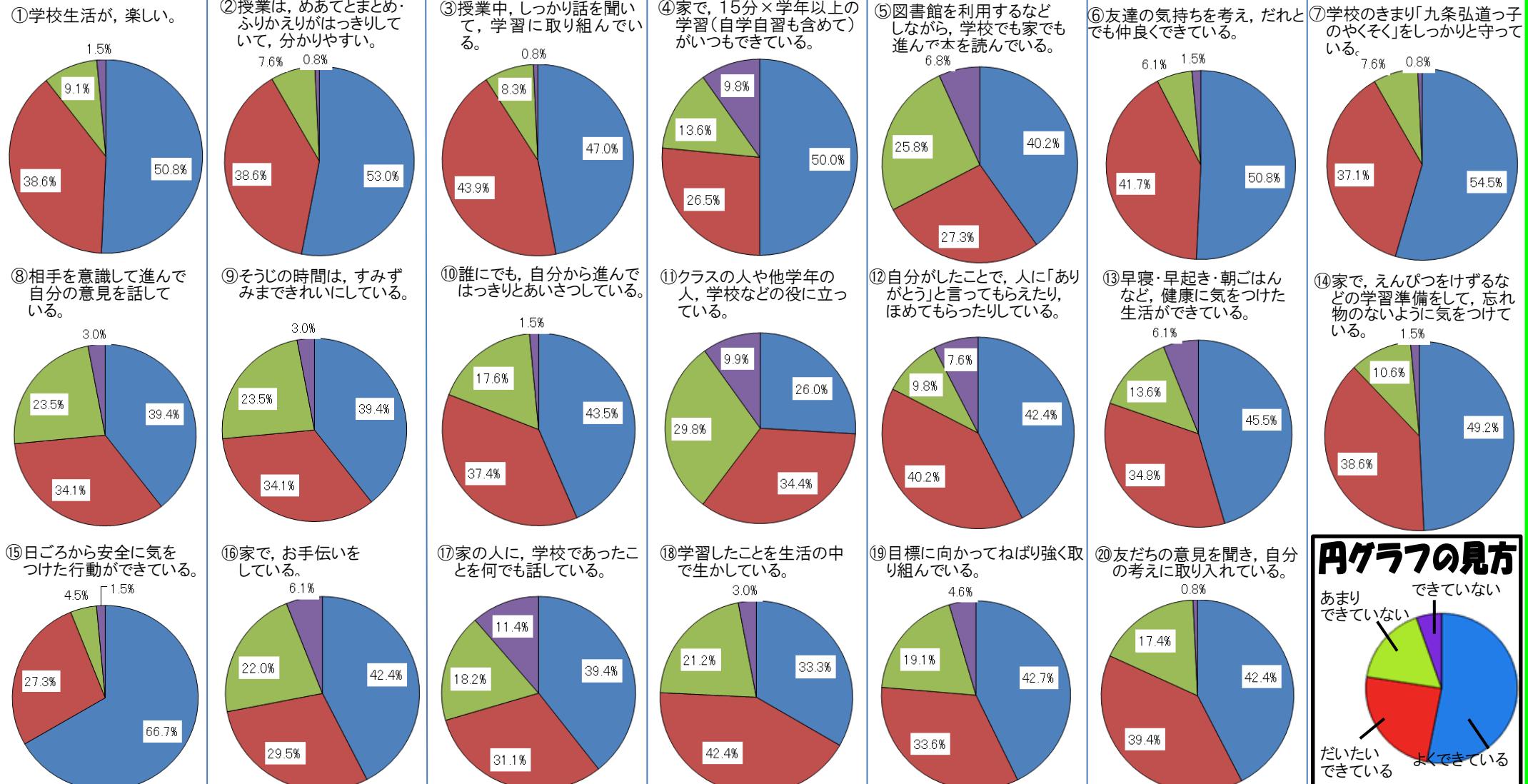
「R2年度前半学校評価アンケート」の集計結果をお知らせします

本校では、年2回(前半・後半各1回)、教職員、子ども、保護者の方々に対して「学校評価アンケート」を実施しております。このアンケートは、現在進めている本校の教育を振り返り、成果と課題を明らかにし、本校教育をさらに充実させていくために活用しています。

前半アンケートの集計結果をご覧いただき、子どもたちをよりよく育むために学校、家庭、地域で今後できることをぜひそれぞれのお立場で考えてみていただければと思います。

九条弘道
SINCE 1911

R2『子どもアンケート(前半)』集計結果



円グラフの見方



R2「保護者アンケート(前半)」集計結果

質問項目	重要度	実現度	ニーズ度
1 子どもは、楽しく学校生活を送っている。	6.9	5.8	15.2
2 子どもは、家庭学習の習慣が身についている。	6.6	4.9	20.5
3 子どもは、家で進んで読書をしている。	6.1	3.7	26.2
4 子どもは、明るく元気なあいさつをしている。	6.8	4.8	21.8
5 子どもは、時間を意識した生活をしている。	6.6	4.3	24.4
6 子どもは、身の回りの出来事に興味をもって見ている。	6.3	4.9	19.5
7 子どもは、何事にも挑戦し、進んで行動している。	6.4	4.4	23
8 子どもは、誰とでもなかよくしている。	6.2	5.1	18
9 子どもが楽しく学校生活が送れるように、生活習慣(早寝・早起き・朝ごはん)を整えている。	6.8	5.4	17.7
10 子どもが家庭で学習できるように、環境を整えたり、言葉かけをしたりしている。	6.6	5.2	18.5
11 子どもに本とふれ合せたり、読み聞かせをしたりしている。	6	3.7	25.8
12 「おはよう」や「おかえり」などのあいさつを大人からするようにしている。	6.6	6.1	12.5
13 子どもの話を手を止めて聞いている。	6.5	4.3	24.1
14 子どもが自分で決めて行動する機会を多くとっている。	6.6	4.4	23.8
15 社会や人のために行動しようとする姿をほめ、大人も心がけている。	6.6	5.1	19.1
16 意見の違いや立場の違いを理解できるように、子どもに声かけをしている。	6.4	5.1	18.6
17 授業は、分かりやすく工夫されている。	6.8	5.1	19.7
18 子どもたち一人ひとりが大切にされ、認められる学校になっている。	6.8	5.2	19
19 気になることがあれば、気軽に学校に相談できる。	6.7	5.4	17.4
20 学校は、ホームページで学校の様子を積極的に伝えている。	6	5.6	14.4

【考察】「前半学校評価アンケート」

【子ども・保護者アンケートより】

- 「進んで読書をしている」という項目の数値が上がっていました。学校図書館の活用や毎朝のパワーアップスタディでの読書の取組の効果があったことが分かれています。一方で保護者アンケートでは、「家で進んで読書をしている」という項目でニーズ度が高くなっています。みんなでの取組となると読んでいるものの、自分だけでとなると難しいところもあるようです。これからも読書を推進し、本を読むことの楽しさを子どもたちが感じられるように取り組んでいきたいと思います。
- 「人や学校の役に立っている」という項目の数値が大きく下がっていました。今年度は大きな行事がなくなり、高学年がリーダーとして活躍できる場がなくなったり、ソーシャルディスタンスを保つために、小グループで話し合いをしながら進めていく学習ができなかったりと協働的な学びの場がつくれなかつたことが原

「保護者アンケート集計結果」の見方

重要度 保護者の方が重要だと考へている度合
(最高値は7)

実現度 どの程度実現できているかを自分の子どもの姿を見て数値で表したもの(最高値は7)

- 「重要度」、「実現度」とも7に近いほど、重要であり、また実現できているということになります。
- 特に「高いもの」と「低いもの」に色をつけてあります。
(高い…ピンク、低い…黄緑) ※カラー版はホームページでご確認ください。

質問項目	重要度	実現度	ニーズ度
子どもは、楽しく学校生活を送っている。	6.9	5.8	15.2
子どもは、家で進んで読書をしている。	6	3.9	24.6
子どもは、明るく元気なあいさつかができる。	6.7	4.9	20.8
子どもは、家庭学習の習慣が身についている。	6.6	4.9	20.5

- ニーズ度** ●「重要度」×(8−「実現度」)で計算し、数値化したもの
●重要だと考へているにも関わらず、実現ができないほど
数値が高くなります。
→「ニーズ度」の数値が高いものほど、課題性があるといえます。
「25」以上のものを「重点課題」とし、色づけてあります。

○「重要度」=7、「実現度」=2の場合 7×(8−2)=42 課題性(大)
○「重要度」=5、「実現度」=6の場合 5×(8−6)=10 課題性(小)

因しているのではないかと考えます。これから少しづつではありますが、感染症予防対策を講じながらも、子どもたちが関わり合って、主体的に学んでいくことができる学習や取組を進めていきたいと思います。

- 活動が制限される中でも、「学校生活が楽しい」という項目は変わらず高い数値を保っていました。このことは子どもたちが、学ぶことや友達と一緒にいることができることの喜びを感じているからではないかと考えます。
- 「自分で決めて行動する機会を多くとっている」の项目的ニーズ度が高くなっています。子どもが自分たちの生活を主体的にしていく上で、「自分で決めて行動する機会」はとても大切な経験となります。自分で決めて行動することにより、その行動に責任を持つことができ、自分で決めて行ったという充実感を感じることができます。学校生活の中でも、子どもたちにできる範囲の中で、自己決定の場を多くとり、主体性を引き出していけたらと思います。充実して活動できた時には、お家の人に聞いてもらいたいという思いをいっぱいもって帰ると思いますので、手を止めて聞いてもらえたたらと思います。